

1. 評価結果概要表

作成日

平成 21 年 5 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	4072400346		
法人名	有限会社 筑後優友舎		
事業所名	グループホーム さざん家		
所在地	福岡県筑後市大字熊野124-3 〒833-0055 (電話) 0942-42-2328		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年5月22日	評定確定日	平成21年7月6日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯に立地し、地域に貢献したいとの思いのもとに開設されたホームである。ホーム内は、利用者が外出した際のスナップ写真や季節感を取り入れた装飾品が飾られ、やさしさとゆとりにつつまれた生活環境を醸し出している。「あなたに寄り添った、あなたらしい暮らしを」を理念に、安心と尊厳ある生活が営まれるよう支援している。ホームで看取りを支援したことがあり、職員が一体となって利用者の望むケアを一貫して行っている。比較的重度の利用者が多い中、利用者が地域の通所介護を利用するなど、利用者の能力を活かし自立支援への働きかけが行われている。地域の文化祭で利用者が歌や踊りに参加したり、利用者の作品を出展したり、ホームの夏祭りや敬老会に地域の人々が参加するなど、地域とのかかわりを積極的に展開している。今後、地域になくはならない拠点に成長していくことが期待できるホームである。

【情報提供票より】(平成 21 年 4 月 25 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 2 月 1 日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	16 人	常勤	12 人	非常勤	4 人	常勤換算	13.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	○ 有(100,000 円) 無	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円程度	

(4) 利用者の概要(4 月 25 日現在)

登録人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護 1	5 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	3 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	59 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまなクリニック、おおぶち歯科医院、筑後市立病院
---------	--------------------------

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、職員へはミーティング時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、市のグループホーム協議会に職員が参加し、同業者との交流や意見交換が行われるなどの具体的な成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、職員全員で内容について確認し、質のレベルアップを図るなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 民生委員、行政の担当職員、地域包括支援センター職員、家族などの参加により、2ヶ月毎に開催されている。運営推進会議時に外部評価結果やホームの活動状況についての報告や行事参加への案内が行われ、地域高齢者に関する民生委員からの相談や困難事例に対して、行政の担当職員から意見が出されるなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時の声かけや家族会、運営推進会議時などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。毎月写真を掲載したホーム通信を送付し、行事参加や外出の状況を報告している。年2回の家族会では、家族だけで話し合う時間をつくるなど、意見や要望等を出しやすい機会をつくっている。出された意見や要望については、内容に応じてその場での回答や、ミーティングなどで話しあいケアに活かす取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 月1回、ホーム便りを地域に回覧し、地域の方へホーム行事への参加を呼びかけたり、夏祭りや敬老会などに地域の人々や地域ボランティアの参加がみられるなど、地域交流が積極的に行われている。地域の文化祭で利用者が踊りや歌に参加したり、利用者の作品を出展するなど、地域との交流の機会を捉え、地域とのかかわりを意識した取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「あなたに寄り添った、あなたらしい暮らしを」の理念 をもとにその人らしい生活ができるよう暖かい手で、 温かい目線で、柔らかな言葉で、穏やかな態度で接 することを介護の指針とし、日々の業務に取り組んで いる。常に地域との関係づくりを意識しながら、町内 会の文化祭に利用者が参加したり、作品を出展する など、地域とのかかわりを意識した取り組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、自然に目に入る工夫がある。業 務の合間に常に理念に立ち戻り、確認している。日々 の業務の中で職員間で理念や介護指針と照らし合わ せて検討したり、月1回のミーティングを通して、理念 に基づいたケアの内容について協議するなど、理念 の実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	月1回、ホーム便りを地域に回覧し、地域の方へ ホーム行事への参加を呼びかけたり、夏祭りや敬老 会などに地域の人々や地域ボランティアの参加がみ られるなど、地域交流が積極的に行われている。地 域の文化祭で利用者が踊りや歌に参加したり、利用 者の作品を出展するなど、地域との交流の機会を捉 え、地域とのかかわりを意識した取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員へはミーティング時に改善についての協 議を行うなど、質の向上への取り組みがある。この過程 で、市のグループホーム協議会に職員が参加し、同 業者との交流や意見交換が行われるなどの具体的な 成果が見られる。今回の受審にあたり、職員全員で 評価項目の内容を確認するなどの取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、行政の担当職員、地域包括支援センター職員、家族等の参加により、2ヶ月毎に開催されている。運営推進会議時に外部評価結果やホームの活動状況についての報告や行事参加への案内が行われ、地域高齢者に関する民生委員からの相談や困難事例に対して、行政の担当職員から意見が出されるなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム協議会の研修などへの参加や運営推進会議への行政担当職員や地域包括支援センター職員の参加により、行政との連携が図られている。ミーティング時に、地域包括支援センター職員から高齢者の人権について講義をしていただくなど、サービスの質の向上に向けた取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティング時に、日常生活自立支援事業について勉強会を行うなど、職員の制度への理解を図る取り組みがある。契約時に、必要と思われる家族に資料を配布し、具体的な利用手順や連絡先などの説明を行っており、実際に制度の活用に至った取り組み事例がある。	○	家族会やホーム通信などを利用して全家族への定期的な情報提供の機会を設け、利用者、家族が活用できるような支援を期待します。また、運営推進会議などを利用して、地域包括支援センター職員から制度についての講義をしていただくなど、繰り返しの制度の説明を行ない、職員全体によるより一層の制度の理解を促すための取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや家族会、運営推進会議時などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。毎月写真を掲載したホーム通信を送付し、行事参加や外出の状況を報告し、担当職員が、利用者の健康状態や暮らしぶりなどを手紙にて伝えている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置するなど、職員は家族の面会の際に意見や要望が表出されるように努めている。年2回の家族会では、職員が退席して、家族だけで話し合う時間をつくるなど、意見や要望等を表出しやすい機会をつくっている。出された意見や要望については、内容に応じてその場での回答や、ミーティングなどで話し合いケアに活かす取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のスキルアップや意識向上などの目的で6ヶ月に1度ユニット間の異動を行っている。日頃から利用者との馴染みの関係を保ち、引き継ぎの期間を設けるなど、利用者にダメージを与えないように配慮している。新しい職員が入職した際は、利用者が職員に馴染めるよう1ヶ月程度は、日中のみの勤務とし、少しずつ馴染みの関係を築くような工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別などによる制限はない。職員一人ひとりの特技を生かし、歌や踊りが得意な職員にレクリエーションを行ってもらうなど、職員一人ひとりの能力を育てながらやりがいを持って勤務していけるように支援している。外部研修や資格取得を目指す職員については、勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングにて、地域包括支援センター職員より高齢者の人権をテーマとした勉強会を行い、職員間で人権について学び、意識を喚起するなどの取り組みがある。日々のケアを通じて、人権の尊重について気づきがあれば、申し送りやミーティングにて指導を行っている。	○	高齢者の人権に留まらない幅広いテーマや視点を取り入れたさまざまな学習や行政の出前講座などを通じて、全職員がさらなる人権への理解を深めていけることを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は案内を回覧して参加を募ったり、研修内容や職員の経験などを考慮し、管理者が参加を促すなどの取り組みがある。日々の業務の中で研修報告を行い、知識の共有に努めるなどの取り組みがある。外部研修や資格取得については勤務調整を行い、職員全体のスキルアップを図るなど、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会や職員が参加し、職員間の情報交換や同業者との交流、意見交換会など、様々な機会を通じて他事業所との交流が図られ、質の向上に向けた取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の本人・家族との面談にての聞き取りやホーム見学など、本人の様子を見ながら安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居前に職員全員で心身状況等の情報を共有し、入居直後は、利用者への頻繁な声かけを行い、かわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の仕方や野菜の皮むき、生活の知恵など、日常の中でのかわりを通じて様々なことを学ぶ機会がある。利用者が自然と職員へ感謝の言葉をかけたり、利用者同士が手をつないだり、他の利用者の椅子を押すなど、利用者が職員の手助けをしてくださる場面が見受けられ、共に支えあいながら暮らしていこうとする関係づくりへの取組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時の面談や家族の面会時、家族会などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。利用者との日々のかかわりを通じて、利用者の何気ない言葉や行動、表情などから利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、申し送りやミーティング時に職員全員で検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居前に心身状況などについての情報提供書を職員全員で確認し、情報の共有が図られている。入居時に把握した生活歴や希望、家族の意向、日々のかかわりの中で把握した情報をもとに、計画作成担当者が介護計画を立案し、ミーティング時に職員全員で検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のミーティング時や日々の申し送り時に本人の 状況や対応などの情報交換や共有を職員間で行って いる。3ヶ月及び状態変化の際は、ミーティング時に 全職員にて利用者や家族の意向の確認が行われ、 ケアについての手順や変更内容についての見直し検 討、再作成を行うなどの取り組みがある。	○	心身状況の変化の有無に関わらず、月に1度程度 は新鮮な観点から、本人や家族の意向や状況を確認 し、職員間で情報や意見を交換し合う機会の確保 などの取り組みを期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^ず の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関による月2回 の往診や連携支援、かかりつけ医への受診介助な ど、利用者の状況や家族の要望に応じて、柔軟に対 応している。介護の日に体位変換について地域の 人々への講座を開催したり、利用者の個別の希望に 応じて、地域の通所介護への利用支援を行う取組み がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医による定期的な月2回の往診やホー ム職員の看護師による利用者の状態把握および利 用者の状態に応じた協力病院への受診の支援があ る。かかりつけ医への受診介助については、ホームに て支援するなどの取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りの指針を作成し、契約時に説明を 行い、書面にて同意を得ている。早い段階で本人や 家族の意思を確認し、状況の変化に伴い、その都 度、家族、主治医、事業所を交えて協議し、方針を共 有していく取り組みがある。ホームにて家族や職員と ともに看取りを行った事例があり、ホーム全体で支援が 行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、入職時やミーティング時、日々のケア時に施設 長や管理者が指導を行い、職員の意識の向上を図る 取組みがある。利用者への言葉かけは、タイミングを 見計らってのさりげない声かけ、視線を合わせて笑顔 で傾聴するなど、利用者の自尊心やプライバシーに 配慮した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちや利用者の体調に配 慮しながら、決して無理強いせず、食事や入浴のタイ ミング、食事のペースなど、利用者一人ひとりのペ ースを尊重し支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	家庭菜園での芋ほりや豆の収穫、野菜の下ごしら え、食器洗いなど、利用者の出来る範囲でかわる 取組みがある。職員は利用者と一緒にテーブルを囲 み、何気ない声かけを行いながら食事を勧めたり、食 器を入れ替えるなど、和やかな雰囲気の中で食事が 楽しみとなるような工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴が可能であり、利用者の体調に配慮し ながら、利用者一人ひとりの希望や状況に応じて柔 軟に対応している。入浴の順番や回数、好みの湯温 など、利用者一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめる ように支援している。入浴拒否の方へは無理強いするこ となく、声かけを工夫するなど、入浴を楽しめるよう に工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	家庭菜園での収穫や草取り、野菜の下ごしらえ、洗 濯物たたみ、食器洗いなど、利用者一人ひとりの役割 等が自然にできており、利用者の出来ることや生活歴 などを把握した上での支援がある。地域の通所介護 への参加やホームの芝生内での昼食など、日常のか かわりの中で利用者の楽しみごとを把握した上での 働きかけがみられる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩や地域行事への参加、買い物、花見、 外食など、利用者の状況に応じてできるだけ戸外に 出かける支援が行われている。天気の良い日はホー ムの広い芝生内で昼食やおやつを楽しむなど、積極 的に戸外に出る取組みがある。家族との温泉旅行や 地域の通所介護への外出支援など、利用者の希望 やその時々状況に合わせた外出の支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関は自動で常時施錠されているが、中庭や利用 者の居室の開き戸は開錠されており、自由に入入り できる。利用者の状態のきめ細かな把握により、外出 傾向を把握し、一緒に外出するなどの対応がある。運 営推進会議時や家族の面会時に施錠についての説 明は行われている。		利用者状況の変化に伴って、施錠を常態化するこ となく、施錠することから考えられる弊害について の理解を深め、利用者の尊厳を保ちつつ安全な生活 を営む為の解決策を検討し、少しずつ鍵をかけないケ アに向けての取組みを期待します。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の消防署の指導による避難訓練を実施し、避 難経路や避難方法、消火器の使い方などの確認、指 導が行われている。運営推進会議時やホーム便りを 町内会、消防署に配布するなど、日々のかかわり を通して、近隣の協力が得られるための働きかけを行 う取組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	カロリーや栄養バランスに配慮した福祉食(委託)の メニューを参考にホームにて調理し提供している。節 分の日に利用者、職員と一緒に恵方巻きをつくり、食 事を楽しむなどの工夫がある。毎回の食事量や水分 摂取量は、利用者毎のチェック表に記録し、利用者一 人ひとりの栄養摂取や水分確保への支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、外出時や行事のスナップ写真、季節 感を意識的に取り入れた装飾が数多く見受けられ、 利用者の手作り作品が飾られるなど、アットホームで 心和ませる家庭的な雰囲気を醸し出している。リビン グの廊下や居室からは、季節の移り変わりに伴う田 畑の様子や裏庭を眺めることができ、心地よい空間と なっている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室は利用者、家族の希望に応じて、畳を敷くなど の対応がある。居室には、テレビ、鏡台、仏壇、家具 などの使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれてお り、安心して居心地良く過ごすための居室作りへの工 夫や配慮が見られた。		

32 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号